

まちかどの元気印

日本共産党

市会議員



山田こうじです！

2026年8月23日

NO.375

事務所：西院上花田町36-3

電話：222-3728

携帯：090-3970-4701

山田こうじ共産党検索

原水爆禁止2026年世界大会 核抑止力との決別を！

8月4日から6日まで、広島市内で開催された原水爆禁止2026年世界大会に参加してきました。開会総会の挨拶で、国際会議宣言起草委員長の富田宏治さんは「核保有国などは核軍拡競争を激化させ、核戦争の危機を高めている」と指摘されました。国際規範が危機となっています。アメリカの「瀬戸際から引き戻せ」キャンペーンを行っているジョゼフ・ガーン氏は、「衰退するアメリカは、国際法違反を繰り返して、核依存を高め、大変危険な帝国。日本への軍拡圧力を強め、唯一の被爆国が核戦争の火種に成りかねない」と

と日本の大軍拡に警鐘を鳴らし「11月のアメリカの中間選挙を目指し民主主義を！核戦争に勝者はなく起こしてはならない」と力強く呼びかけました。被爆81年、被爆者の平均年齢は86歳を超えています。被爆者の証言を直接聞くことができる時間はわずかであり、被爆者の証言は益々重要になっていきます。アントン・ワインウィスロツキさん（オーストリア参事官）は、「核爆発が起これば対応できない。この事を公然と無視し続けている」として「各国の外交官は、一度ヒロシマを訪れるべきで、壊滅的な結末を理解するであろう」と訴え、核兵器の脅威を知り、すべての国に核兵器禁止条約に加入を呼びかけられました。

特別企画「市民と議員との対話」で、田村智子日本共産党委員長は「世界大会とともに育った政治家です」と自己紹介し、「禁止条約抑止力との決別今こそ！」



核の破局が核廃絶か
重大な岐路

「核抑止とは、いざとなったら核を使う立場。如何なる状況のもとでも核は使わないという立場に立たない議論。核抑止が破綻すれば核戦争になる。核抑止は安全保障として成り立たない」と核抑止と決別し、「核兵器のない平和で公正な世界を」と訴えられました。

参加を正面から受け止めて、核抑止を正面から議論すべき」と指摘され、非核三原則を今後どうするか言わない総理、防衛大臣を厳しく批判しました。

「核抑止とは、いざとなったら核を使う立場。如何なる状況のもとでも核は使わないという立場に立たない議論。核抑止が破綻すれば核戦争になる。核抑止は安全保障として成り立たない」と核抑止と決別し、「核兵器のない平和で公正な世界を」と訴えられました。

結び、その結果日本はアメリカの基地国家にされた」と指摘し「日本原水協の運動が重要」と述べられた。キム・ジンヨンさんは、韓国の被爆者、被爆二世の運動。韓国のハプチョンでは「ハプチョン非核平和大会」を開催し、核保有国や核の傘に依存する国々に対し核兵器禁止条約加入を促していることが報告されました。ズオン・ティ・ガーさん、コラソン・ファブロスさんは、軍事同盟ノ、武力の威嚇、武力の行使ノ、国内に外国軍基地ノ、特定の国の敵視ノと「4つのノ」を通じて、話し合うASEANの取り組み。団結（Unity）と多様性（Diversity）の2つを大切に、ASEAN域外との交流を進めていることを報告されました。



山田こうじです！
NO.361
7月23日から25日までの3日間、市議員団として2班に分かれ他都市調査を実施しました。私はB班に参加し、名古屋市中区で保健センターの取り組みと学区ごとに整備されているコミュニティセンターについて、新潟市では少人数学級の取り組みと国民健康保険料の引き下げ、太陽光発電と陸上風力発電のゾーニングについて、静岡県磐田市では、天然芝のスポーツ施設の整備と管理について視察しました。いずれの取り組みも先駆的で考え方、取り組みの方向性など、教訓的に京都市でも活かしたい取り組みでした。